

04・二人きりの大浴場で、大股開きさせられてガチクンニでイカされる

トラック03から数分後。

主人公『はちやの湯』女性風呂の浴槽に浸かっている。

浴槽はとても広く、女性風呂には主人公しかない。

のんびりと過ごせるひと時である。

SE1 銭湯の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【0―20秒ほど流してSE2】

【その後、音量が小さくなる】

【トラック終了まで流し続ける】

20秒ほど、銭湯の環境音のみが続く。
すると……。

ふと遠くで銭湯の入り口が開く音がした。

SE2 銭湯の扉が開く音

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、かすかに聞こえる】

SE3 みつみの足音1

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【『とても遠くで、かすかに聞こえる』位置から、3メートル地点ほどまで近づく】

【だんだん近づいてくる】

▲1 で一度ストップする】

▲2 で再開し、1メートルほどの距離まで近づく】

▲3 でストップする】

〈主人公〉

「……！」

みつみである。

みつみ、少し離れた位置から主人公に話しかける。

▲ ボイス加工あり

【3メートルほど離れた位置から聞こえる】

● 正面 30センチ

「このトラックは、すべて主人公に話しかけている。
にやにやと嬉しそうに。

主人公が浴槽にいるのを発見できたので」

あゝ……♡ はっけくん……♪」

▲ 1 ここでSE3が一度ストップする。

〈主人公〉

「みつみ姉ちゃん！」

みつみ、だんだん近づいてくる。

▲ ボイス加工あり

「2メートルほど離れた位置から聞こえる」

● 正面 30センチ

「【にやにやと嬉しそうに。

片手を上げて、主人公に挨拶しながら近づいてくるイメージ】
よっ♪」

▲ 2 ここでSE3が再開する。五秒ほど流して ▲ 3

〈主人公〉

「みつみ姉ちゃんもお風呂？」

あれ？ 早くない？」

主人公、思わず疑問を口にする。

みつみはまだ、家事や、管理がらみの仕事が残っていると思っていたのだが……。

みつみ、だんだん近づいてくる。

▲ 3 ここでSE3がストップする。

▲ ボイス加工あり

【1メートルほど離れた位置から聞こえる】

● 正面 30センチ

「明るく嬉しそうに。

主人公と過ごせるのが嬉しいので】

仕事、さーっと終わらせてきちゃった♪

一緒に入ろく♡」

〈主人公〉

「うん！」

そういう事なら大歓迎だ。

主人公、大きく頷くと、みつみが浴槽に入ってくる姿を見上げて待った。

SE 4 みつみが浴槽に入る音

【最初から最後まで流す】

「1メートルほど離れた位置で聞こえる」

「とても小さな音量で流す」

みつみ、さらに近づいて、50センチほどの距離になる。

▲ ボイス加工あり

「50センチほど離れた位置から聞こえる」

● 正面 30センチ

「【うつとりと気持ちよさそうに。

とてもいいお湯なので」

はあゝ……いいお湯だねえ。さすが我が銭湯♥

【主人公に、入浴したタイミングを尋ねる】

さっき来たの？」

〈主人公〉

「うん！ ついさっき入ったばかり♪」

みつみ、さらに近づいて、30センチほどの距離になる。

二人、お風呂につかりながら、ゆっくりとした会話を始める。

● 正面 30センチ

「きゃっきやと嬉しそうに」

あ、そうなんだ♥ タイミングよかった♥

〈主人公〉

「りっさんには会えた？ さっき出ていったんだけど……」

主人公、ここで少々気になって、たずねる。

みつみは、ちようど出て行ったり津と、今度こそ会えただろうか。

● 正面 30センチ

「【主人公の質問に答える】

そうそう。入口のところでりっちゃんに会ったよう。

今度は入れ違いにならなかった♪

【少し間をあけてから。

ちよつと淋しそうに。

以前は皆でゆっくり入浴する事もよくあったのに、今月は、数人集まる事も難しいので……最近みんな、ほんと忙しいよね。

ちよつと前までは、全員でゆっくりお風呂入ったりしてたのにさ。

今週は、お風呂どころか、ご飯も揃う方が珍しいし。

十二月だからなく……。

お姉ちゃん、ちよつと淋しいよ」

〈主人公〉

「……確かに、それはあるかも……」

みつみは律に会えたようだが、それはみつみの淋しさが増す要因にもなってしまっていたようだ。

最も、お風呂の時間も一人極端にずれる、ご飯時にいられない下宿生の筆頭は主人公でもある。

なので主人公は、内心申し訳なくなりつつも、みつみを励ました。
少なくとも自分は……もう少しすれば、多少は時間ができる。

〈主人公〉

「でも、もうしばらくすれば、また一緒にゆっくり過ごせるって♪」

● 正面 30センチ

「【気を取り直した感じで明るく。

主人公の言葉を受けて、気分が明るくなったので】

……そうだね！

【にやにやと嬉しそうに】

ま、みんなと入れないのは残念でもあるけど。

二人つきりもいいよね……♡

【ちよっとだけわざとらしく尋ねる。

ちらつと鋭い質問を浴びせる感じで。

実は、今回はこれを探ねようと、急いで作業を終わらせてお風呂に来たので】

みんな大変そうだけど、あなたは特に忙しいし。

今週なんか、土日も短期バイトするんでしょ？」

〈主人公〉

「そ、そ、そうねえ？」

こうしてみつみは元気を取り戻してくれたようだが、今度は別の事が気になるらしい。
みつみは『ずいっ』という感じで少し近づく、主人公の顔を覗き込んで尋ねた。

SE5 みつみが近づく音

【最初から最後まで流す】

● 正面 15センチ

「【強めに同意して】

そ、う！

傍（はた）から見たらあなた、働きづめだよ。

【さらに律の存在まで出して、己の主張を強化する】
りっちゃんもあなたの事。

『なんか最近、すごい大変そう』って言ってたもん。

【ちょっと可愛く拗ねたような、あからさまに訝しがつている感じで】

……ねえ。

なくんでそんなにバイトしてるの？」

〈主人公〉

「ええーっとお……」

主人公、返答に窮する。

実は主人公は今、みつみへのクリスマスプレゼントを購入するためにバイトを頑張っている。

『……でも、給料即手渡し系のアルバイトでもない限り、十二月分の給料が入るのは来月以降ではないか？ そんなにたくさん即手渡しの仕事が見つかったのか？』とツツコミが入りそうだが、その通りだ。

主人公は結局、先月までに目標金額に到達できなかった。

よって、両親にお金を借りてプレゼントを買うことになってしまっている。

しかし、そんなのは情けなさすぎるので……。

一刻も早く完済するため、十二月もアルバイト漬けなのだ。

よって『はちみつ寮』にいる時間が極端に少ない、というわけである。

SE 6 壊れた蛇口から、勝手に水が出始める音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【『みつみ』のセリフが自然に流れる中で、自然に音が鳴り出す感じにする】

【最初はとても小さく目立たないが、▲4でそこそこ聞こえるほどの音量になる】

【耳をすませば、最初から蛇口の水の音も聞こえるくらいのイメージでスタートする】

【▲5ではっきり聞こえるほどの音量になる】

【▲6でSE10とともにストップする】

● 正面 15センチ

【「ちよつとかわいく、コミカルな感じで。

真剣に頷く】

うん」

〈主人公〉

「それはあ……」

● 正面 15センチ

【「ちよつとかわいく、コミカルな感じで。

あからさまに訝しがつている感じで続きを促す】

それはあ？」

しかしこんな事は、当然みつきには言えない。
だから、主人公がなんとか誤魔化そうとしていると……。
目をそらした先で、思わぬ事が起きていた。

▲4 ここでSE6が、そこそ聞こえるほどの音量になる。

〈主人公〉

「あ！ みつきお姉ちゃん、見て！」

●正面 15センチ

「『ちよつとかわいく、コミカルな感じで。
まるで信じていない。』

『騙そうとしたって、その手には乗らないぞ』と訝しがっている感じで」
んんん？」

〈主人公〉

「あそこの蛇口！ 水、出たままになってる！」

そう、少し離れた先の洗い場の一つで、なぜか水があふれてきているのである。

話題そらしという点では助かったが、このままにしておくわけにはいかない。

話題をそらした者とそらされたものという違いこそあるものの、みつみもきつと同じように思っているはずだ。

▲5 ここでS E 6が、はつきり聞こえるほどの音量になる。

●正面 15センチ

「「ちよつと声が低くなる。」

素で驚いた感じで。

その後、ポカンとした様子で続ける。

主人公が指さす先を見ると、実際その通りだったので。

主人公がこの場を誤魔化すために、適当な事を言っただけではないと理解する」

……あ、ほんとだ。

あそこの蛇口。水、出っ放し（でっばなし）になってる……」

みつみ、浴槽から出ると、蛇口のある洗い場へ浮かう。

特にその必要はないのだが、主人公も後に続いた。

SE 7 みつみが浴槽から上がる音

【最初から最後まで流す】

【0—1秒ほどまで流して、SE 8と重ねて流す】

SE 8 主人公が浴槽から上がる音

【最初から最後まで流す】

【SE 7から1秒ほどずれる感じで、重ねて流す】

SE 9 二人が移動する音

【SE 3と同じ音】

【最初から最後まで流す】

〈主人公〉

「誰か止め忘れたのかな？」

▲ 6 ここでSE 6が、蛇口が閉まるとともにストップする。

SE10 みつみが蛇口を止める音

【最初から最後まで流す】

● 正面 30センチ

「「ちよつと考え込みながら話す。

主人公の言う通りかもしれないが、みつみにも思い当たる節があるので」
うーん、そうだねえ。

誰か止め忘れたまま、出てっちやったのかも。

……でもこの蛇口、古いんだよねえ……。

もしかしたらちよつと緩んでて、勝手に水出てくるようになったっちやってるかもしれない。
明日にでも業者さんに相談して、付け替えてもらうね」

〈主人公〉

「そっか……。大変だね」

なるほど、そういう事もあるのか。

銭湯の事に詳しくない主人公にはよくわからないが、みつみが思ったよりも落ち着いて
いる辺り、時にはこういう事もあるのかもしれない。

主人公、よくわからないなりに頷いて『では、ひとまず処置した事だし、浴槽に戻るか……』と思っていると……。

● 正面 30センチ

「明るく。特に気にしていない感じで。

言葉の通り、こういった事も自分の仕事なので」
ま。こういうのも仕事だからね♪

【さらっと話題を変える。

明るく嬉しそうに思い付きを言い、主人公を驚かせる】
ていうか、せっかく洗い場まで来ちゃった事だし、久しぶりに身体洗ってあげるよ♪」

〈主人公〉

「えっ？」

みつみが思わぬ提案をした。

その上、主人公がまともな返事をする間もなく、みつみはもうその気になっている。

SE11 みつみがお風呂椅子を引く音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

● 正面 30センチ

「明るく上機嫌で。」

今引いたお風呂椅子に座るように促す」
さ。座って座って♪」

〈主人公〉

「ええっ？」

SE12 みつみがお風呂椅子を引く音2

【SE11と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

● 正面 30センチ

「【ちよつと可愛く拗ねた感じで。】

主人公に『ちよつとくらい時間を作って』とおねだりする」
いいじゃん。今日はもう特に用事ないんでしょ？
ゆっくりしてこうよ」

〈主人公〉

「ない、けど……」

● 正面 30センチ

「【明るく上機嫌で。

しかし、有無を言わせない感じで」

よし♪ じゃあおいで♪」

〈主人公〉

「……うん」

かくして、主人公はまたも流された。

よくわからないまま、みつみに身体を洗われる事になってしまった。

SE13 主人公の足音

【最初から最後まで流す】

SE14 主人公がお風呂椅子に腰かける音

【最初から最後まで流す】

ポカンとしている間にもみつみは洗う準備に入っており、主人公の背後に座る。
主人公は後ろから洗われる事になる。

● 背後 30センチ

「【明るく上機嫌で】

はくいえらい子♡

お仕事頑張ったえらい子の身体は、お姉ちゃんが洗ってあげますからね♡

【嬉しそうに楽しげに。

こう言った事をするのは、少々久しぶりなので】

ふふっ♡ なんかちよつと久しぶり♡

〈主人公〉

「もおゝ……♡ 恥ずかしいよお……♡」

● 背後 30センチ

「【明るく上機嫌で】

恥ずかしいい？

えゝ？ いいじゃん♡

誰も見てないんだからさ♡

はい♡ 始めますよ……♡

ふふ♡」

〈主人公〉

「もおゝ……♡」

こうして主人公は、洗われ始める。

口では恥ずかしいと言っているものの、むろん、本当は嬉しい。

人に身体を洗われたり、逆に洗ったりするのは、何とも言えない幸福感がある。

SE15 みつみがボディソープをプッシュし、泡立てる音

【最初から最後まで流す】

SE16 みつみが主人公の身体を洗う音1

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【ボイスの邪魔にならない程度に、少し音量を小さくして流す】

【▲7 でストップする】

● 背後 30センチ

「【※しばらく※ 息づかい、あるいは鼻歌のみで表現する。

無言で、だが楽しそうに身体を洗っているイメージ。

時折鼻歌っぽいものが混じる】

ふーう。

はあ……はあ……はあ……。

ふう……♪

ふん、ふん、ふー……ん……♪

はあ……はあ……はあ……。

ふーん……ふん♪

「ここでふと話し出す。

さりげないようで、実はこの話がしたかったので」

……でさあ」

〈主人公〉

「うん……？」

だが、ただ幸福に浸っている訳にもいかないうだ。

みつみはやはり、先ほどの件が気になっているらしい。

話を戻そうとしている。

● 背後 30センチ

「あくまで、さりげない雰囲気装って。

内心とても気にしているが、主人公のプライベートを慮って、優しく。

『さっきの話』とは『アルバイトで随分忙しそうにしているが、その理由は言えないらしい事』

さっきの話だけだ。

別に、言いたくないならいいんだ？

あなたももう大人だし、あなたの時間は、あなたが自由に使うものなんだから」

〈主人公〉

「……うん」

だが、話が思わぬ方向に転がってきた。

主人公、なんだかみつみにあらぬ誤解をされているような気がして、少々焦る。しかし今の主人公には、その誤解を解く事ができない。

たとえばバレバレの気がしても、ネタバレはしたくないからだ。なので、神妙な顔で頷くのにとどめる。

結果として、それが余計にみつみの心配を加速させる事になるのだが……。

● 背後 30センチ

「【かわいく強調して。

この点に関しては譲れないので】

で、も！ 困ったら、必ず相談してよ？

わかった？」

〈主人公〉

「……うん！」

● 背後 30センチ

「上機嫌で。」

主人公の了承が得られたので」

よろしい♪」

▲ 7 ここでSE16がストップする。

みつみ、近づいて、首筋にキスする。

● 背後 30センチ やや下あたり

「※1回※ キスする。」

首筋にキスする」

ちゅ♡

みつみ、先ほどの位置に戻って話し始める。

主人公は『に、逃げ切ったか？』と内心ドキドキしつつ、素直に好きにされていく。

● 背後 30センチ

「【上機嫌で】

じゃあ今日は♪ 毎日働くあなたに。

元気が出るように、パワーが沸くように。

みつみお姉ちゃんが一杯綺麗にしてあげるね♪」

〈主人公〉

「！」

だが、好きにされすぎて、またどうにも、えっちな雰囲気になってきた……。

SE17 みつみがボディーソープを泡立てる音

【最初から最後まで流す】

言うと、みつみ、主人公に密着する。

背後から右耳に向かって『無声音ささやき』をする。

SE18 みつみが主人公の身体を洗う音2

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【▲8 で一度ストップする】

【▲9 で再開する】

【▲10 でストップする】

●右 0センチ 背後 0センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく
「くすくすと嬉しそうに。」

身体を主人公の背中にぴったりくっつけて話している】

ほく……ら。好きでしょお？

こんな風にいく……くっついて。

おっぱいで、こんな風に」※

みつみ、少しだけ離れて、主人公の身体を、自分の胸を使って洗う。

●右 15センチ 背後 15センチ

「くすくすと嬉しそうに。

小さく上下に動いて、自分の身体で主人公の身体を洗いながら話しているイメージ」

背中洗われるの、大好きだもんね〜……♡

ほくらあ……すりすり、すりすり……♡
背中に重たい感じが当たるの、嬉しいもんね〜♪
すりすり、すりすり、すりすり……♡

【※しばらく息づかいのみ※ で表現する。

とてもゆっくり、興奮気味に。

ふざけつつも、身体はちゃんと洗おうと、熱心になっているイメージで」

はあ……。はあ……。

はあ……。

……ふう。

はあ、はあ……ふうう……。

はあ、はあ。ふううつ……♡

【背中から腕に移動する。

二の腕に胸を擦り付けているイメージ。

ちよつと興奮気味で、息が荒い感じで。

主人公に意地悪しているうちに、自分も興奮してきたので。

途中、興奮気味の呼吸が混じる」

へへへ。

背中。綺麗になったから、次はこっち………♡」

▲ 8 ここでSE18が一度ストップする。

● 右 15センチ 背後 15センチ

「ふふ、腕、ふにふにだ………」

気持ちいいね………♡」

▲ 9 ここでSE18が再開する。

● 右 15センチ 背後 15センチ

「※6回※ 呼吸する。

とてもゆっくり、興奮気味に。

ふざけつつも、身体はちゃんと洗おうと、熱心になっているイメージで」

はあ。はあ。はあ。

はー。はー。ふう………♡

「ちょっと興奮気味で、息が荒い感じで。

主人公に意地悪しているうちに、自分も興奮してきたので」

右の手は、私の、お胸で。

左の手は、私の手で。

【※5回※ 呼吸する。

とてもゆっくり、興奮気味に。

ふざけつつも、身体はちゃんと洗おうと、熱心になっているイメージで」

はあ。はあ。……はあ。

はあっ。はあ……。。

洗ってあげるねく……♡」

みつみ、ここで、主人公の上半身を洗い終える。

▲10 ここでSE18がストップする。

●右 15センチ 背後 15センチ

「「ちょっと興奮気味で、息が荒い感じで。

主人公に意地悪しているうちに、自分も興奮してきたので」

はああっ……♡

綺麗になったね……♡

じゃあ……。

あったかいお湯で長そうね……♡
」

SE19 みつみが主人公の身体の泡を流す音

【最初から最後まで流す】

みつみ、ここで、主人公の上半身の泡を流し終える。

主人公、これで洗われるのも終わりだろうか、このまま後はお互い自分の髪や身体を洗って出るのだろうか、ほっとしたような、残念なような気持ちに襲われる。

だが……。

● 右 15センチ 背後 15センチ

「「ちよっとわざとらしく。」

いかにも『今気づきました』といったていを装う。

主人公の身体を、上半身しか洗っていなかった事について述べる。

実際は勿論、わざとやっている」

ああ……そうだ。

下の方、洗うの忘れてたね……♡

よおし……♡ 泡も流れたし……。

次は、こつちを洗ってあげなくっちゃね♡

じゃあ。こつち向いて、お股、ひらこつか♡」

〈主人公〉

「ええええっ？」

みつみはやはり、これで終わる気はなかったようだ。

主人公はまた困惑しているふりをして、積極的に流されていく。

● 右 15センチ 背後 15センチ

「優しく嬉しそうに。

でも有無を言わせない感じで」

いいの♡ いいじゃん。

しよお？」

言うと、みつき、主人公に密着する。

背後から右耳に向かって『無声音ささやき』をする。

●右 0センチ 背後 0センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「ひそひそと、優しく。」

図星について、ダメ押しする感じで

だって。もうお……♡

濡れちゃって来てるんでしょ……?」※

〈主人公〉

「……っ♡」

みつき、今度は同じ『右 0センチ 背後0センチ』の位置のまま話しかける。

●右 0センチ 背後 0センチ

「優しい声で、でもちよつと意地悪に。」

ちよつとだけ言葉攻めっぽくなる」

ほら♡ やっぱりそうだ……♡

身体洗われるの気持ちよくて。

もっと気持ちいいのしたくなっちゃったんだよね♥」

みつみ同じ『右 0センチ 背後0センチ』の位置のまま『無声音ささやき』をする。

●右 0センチ 背後 0センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「『ひそひそと、優しく。そっと誘う感じで』

ほら、足開いて？

ぺろぺろされるの好きでしょ？

お股ぺろぺろされて、一日の疲れ取って。

一杯楽しくになっちゃおう？

ね……？」※

SE20 主人公がみつみの方を向いて、足を開く音

【最初から最後まで流す】

【とても小さな音量で流す】

SE21 みつみが移動する音

【最初から最後まで流す】

【後ろから、正面に移動して、股間のあたりで止まる感じで流す】

こうして足を開けば、あとは夕方とおおむね同じ事が起きるだけだ。

主人公はまた犯される。

みつみは主人公の股間の前にしやがみこみ、『正面 30センチ 下50センチ』の位置で話しかける。

●正面 30センチ 下 50センチ

「優しい声で、でもちよつと意地悪に。

ちよつとだけ言葉攻めっぽくなる。

主人公の股間を見つめながら話している感じで」

んふふ。かわいく……♡

みんなと使うお風呂なのに、お股広げてえっちする格好になっちゃったね♡
やっぱりしたかったんだねえ。

いっつもこれされると、すぐイっちゃうもんね……♡

沢山べろしてあげるからね……♡」

みつみ、主人公の股間に顔をうずめ『正面 15センチ 下50センチ』の位置で舐め始める。

●正面 15センチ 下 50センチ

「※しばらく※ 舐める。

まずは軽めに、舐め始め程度」

んんっふ……れーろっ……♡

れるれる、れーろ……♡

【舐めながら話す。

『ほら、もういい顔してる』と言っている。

『いい顔』とは『感じていて気持ちよくなっている顔』という意味】

ほひや……♡ ほお、ひいかほひてふ……♪

【※しばらく※ 舐める。

しっかり舐め始める。

だが、まだあまり激しくはない。

主人公の様子を見ながら、丁寧に舐めている感じで】

んんっく、んっふ。

れーろ、れーろ、れーろ……。

じゅるっ ♥

えれれれ……ちゅるっ ♥

んっく……んっふ……ぺろっ ♥

【※息づかいのみ※ で表現する。

鼻で呼吸する。

ゆっくり、少し苦しそうに。

主人公の股間に口を付けたまま呼吸している感じで

んーふーっ……。

んーふうっ……。んーふうっ……。♥

【※しばらく※ 舐める。

舐めを再開して、

ゆっくり、べろべろ丁寧に舐めている感じで。

途中で股間へのキスを交える】

んっく……れーろ……れーろ……れーろ……ちゅ ♥

【※しばらく※ 舐める。

舐め方に緩急をつけていく。

今度はぴちやぴちや音を立てて、やや早めに舐める感じで。

途中で股間へのキスを交える」

れろれろれろれろ……ぴちやっ♡

れーろ、れーろ、れーろ、ぴちゅっ♡

ちゅっぱあ……えれえれえれ……ぺろっ♡

【鼻で呼吸しながら舐める。

ゆっくり、少し苦しそうに。

主人公の股間に口を付けたまま呼吸している感じで」

んー……ふーっ……。

ぴちゅ。

んんう……ふー……♡

れろっ♡

んんー……っ……ふううう……♡

【※しばらく※ 舐める。

舐めを再開して、

しっかり音を立てて激しめに。

音でもさらに主人公の興奮を煽っていく感じで。

途中で股間へのキスを交える」

ぺろぺろ……ぺろぺろ……じゅるっ♡

ずるるるっ、ずるっ、ちゆるるるっ ♡

れーろれーろ、ちゆるるっ。じゆるるるるっ ♡

【※息づかいのみ※】で表現する。

鼻で呼吸する。

早く、少し苦しそうに。

主人公の股間に口を付けたまま呼吸している感じで
んーふーっ、んーふーっ、んんふうっ…… ♡

【舐めながら話す。

『気持ちいいねえ』と言っている】

ひもひひいへえ…… ♡

【※しばらく※】舐める。

ゆっくりめからだんだん早く。

音でもさらに主人公の興奮を煽っていく感じで。

途中で股間へのキスを交える】

んっく……。

れーろ……れーろ。

れーろ、れーろお……ちゅ ♡

れろれろれろ……ちゆるるっ ♡

【※しばらく※ 舐める。

しっかり音を立てて激しめに。

音でもさらに主人公の興奮を煽っていく感じで。

途中で股間へのキスを交える】

じゅろじゅろ、ずろずろ、ずるるるっ ♡

じゅるじゅる、じゅるじゅる、じゅるるるうっ ♡

べろおおっ ♡

【※息づかいのみ※ で表現する。

鼻で呼吸する。

早く、少し苦しそうに。

主人公の股間に口を付けたまま呼吸している感じで】

はーふう、はーふう、はーふうっ…… ♡

【大きく舐め上げて、一旦口を離す】

べろおおっ ♡

【※舌を出した状態で※ 話す。

自分の唾液と主人公の愛液がまじりあったものを舌の上に乗せて、主人公に見せつけている。

それぞれ『ほら、見てえ？』

『こんなにあふれてきてるよ』

『いつでもイッていいからね』と言っている。

途中で股間へのキスを交える」

ほらあ……みへえ……？

こんひやに……あふれへきへるよ……♡

ちゅ♡

いふれもいっふえ、ひいからへ♡

【※しばらく※ 舐める。

鼻で呼吸しながら。

しっかり音を立てて激しめに。

ペースを上げて、いよいよ本気でイかせにかかる感じで」

んんんうっ……ふーっ♡

ふーっ……じゅるっ、じゅるるるっ、じゅるっ♡

んーふーっ……んーふーっ……♡

れろれろれろれろ……じゅるう♡

れーろれーろ、れーろれーろ。

じゅるじゅる、じゅるじゅる、じゅるじゅる♡

れーろれーろ、れろれろれろ、じゅるっ♡

んーふーっ、んーふーっ、んんふう♡」

〈主人公〉

「……あっ♡ あっ♡ あっ♡

みつみ姉ちゃん、わたしっ……♡」

みつみ、主人公の絶頂に近いのを理解して、さらにペースを早める。
忙しい理由。それすら話せない主人公に、みつみはちよっと甘すぎる。

●正面 15センチ 下 50センチ

「【※しばらく※】舐める。

鼻で呼吸しながら。

ラストスパート。

しっかり音を立てて激しめに」

んんっふ……れーろっ……♡

んんっふ……れーろっ……♡

じゅるるるるっ、じゅーるっ♡

じゅるるる、じゅるっ♡

ずぞっ、ずぞっ、ずぞぞっ♡

【苦しそうに呼吸しながら。

ラストスパート。

主人公の反応が激しくなってきたので、主人公の身体を押さえつけながら舐めている】

んんっふ、んっ。んっ、んー♡

んんんんっ、んっ♡

んん、んう、んー♡ ふーっ……♡

【※ここで主人公が絶頂する※

ちよっど激しく、絶頂ポイントなのがわかりやすい感じで】

んんんんうっ……♡「

〈主人公〉

「……あああっ……♡」

主人公、絶頂する。

みつみ、唇を股間から離して主人公を見上げる。

まるでイきたての主人公を見る事が、何よりの楽しみかのように。

●正面 15センチ 下 50センチ

「※12回※ 呼吸する。

苦しそうな呼吸。

激しく荒い呼吸から、だんだんゆっくりになっていって、落ち着く」

はーっ♡ はーっ♡ はーっ♡ はーっ♡

はーっ、はーっ、はーっ、はーっ……♡

はー……♡ はー……♡ はー……♡ はー……♡ はー……♡

「少しまだ苦しうに、だが満足げに微笑む。

主人公が自分の口で絶頂したので」

ふふ……♪

いーっばいっ……気持ちよくなれたね……♡

「※1回※ キスする。

股間にキスする」

ちゅ♡

ここでフェードアウトして終了。